

軽症 脳梗塞 患者さんパスシート (No.1)

氏名	
----	--

診療科名	脳卒中集中治療科		
入院予定期間	年	月	日
	年	月	日

月日	/		
経過	入院 1 日目		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 手足が動かしづらい、頭痛や嘔気、めまいなどの症状が出た時はすぐに看護師に伝えましょう。 体が熱い、だるいなどいつもと違う症状を感じたらすぐに看護師に伝えましょう。 転倒・転落の危険性、予防方法について理解しましょう。 		
薬	<ul style="list-style-type: none"> お薬を内服されている方は、入院時にお薬手帳をお持ちいただくか、薬の内容を医師や看護師、薬剤師にお伝えください。 再発予防のため、抗血栓のお薬が開始となります。 24 時間点滴が開始になります。また、腎機能を確認して、脳を保護する点滴を 1 日 2 回（朝・夕）に行います。 		
検査	<ul style="list-style-type: none"> MRI、レントゲン、採血の検査があります。また、必要時、ベッドサイドで超音波の検査を行います。 		
処置	<ul style="list-style-type: none"> 必要があれば、深部静脈血栓症予防のため、着圧のストッキングを履きます。 		
観察	<ul style="list-style-type: none"> 心臓の動きを観察するために、心電図モニターを 24 時間装着します。 体温、血圧（1 時間ごとに測定させていただきます）、脈拍、酸素飽和度、頭痛、嘔気、麻痺の増悪、瞳孔の大きさと反応、飲み込みづらさの有無、歩きの状態を観察します。 		
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 排泄時は、ベッド上で尿器や便器を使用します。車いす可能であれば、車いすでトイレに行きます。 		
活動	<ul style="list-style-type: none"> 症状が変動する可能性もあるため、ベッド上安静または、車いすまでとなります。 		
食事	<ul style="list-style-type: none"> 食事や飲水の開始は、飲み込みの状況を確認し、安全に、むせ込みがなく飲み込むことが確認出来てから開始となります。 		
清潔	<ul style="list-style-type: none"> 体を拭くお手伝いをします。 		
説明指導	<ul style="list-style-type: none"> 医師より、入院診療計画書、入院中に必要な検査治療に関する説明、脳卒中地域連携パスについての説明をします。 行動範囲が広がっている最中は転倒の可能性が高いため、転倒予防についての説明をします。 マスクの着用、病室出入りの際には手指消毒の実施をお願いします。 		

このパスシートは、診療計画の概要等をお知らせするものであり、治療・検査等を決定するものではありません。なお、病状に応じて変更する事がありますが、その時お知らせしますのでご了承ください。

軽症 脳梗塞 患者さんパスシート (No.2)

氏名		診療科名	脳卒中集中治療科		
		入院予定期間	年	月	日
			年	月	日

月日	/ ~ /	
経過	入院 2 日目	入院 3 日目
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 手足が動かしづらい、頭痛や嘔気、めまいなどの症状が出た時はすぐに看護師に伝えましょう。 体が熱い、だるい、息苦しさ、痰が増えるなどの症状が出たらすぐに看護師に伝えましょう。 転倒・転落の危険性、予防方法について理解しましょう。 リハビリスタッフと一緒にリハビリをしましょう。 	
薬	<ul style="list-style-type: none"> 再発予防のため、抗血のお薬を内服します。 24 時間点滴を行います。また、脳を保護する点滴を行っている場合は、1 日 2 回（朝・夕）に行います 	
検査	<ul style="list-style-type: none"> (/) の朝に採血の検査があります (/) に頭の MRI 検査があります。  	<ul style="list-style-type: none"> (/) に心臓の超音波検査があります。
処置	<ul style="list-style-type: none"> 特にありませんが、必要時、説明させていただきます。 	
観察	<ul style="list-style-type: none"> 体温、血圧、脈拍、酸素飽和度、頭痛、嘔気、麻痺の増悪、瞳孔の大きさと反応、飲み込みづらさの有無、胸の音、痰の量や性状、歩きの状態を観察します。 	
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 排泄時は、ベッド上で尿器や便器を使用します。車いす可能であれば、車いすですトイレに行きます。 	
活動	<ul style="list-style-type: none"> 検査などへの移動は、車いすで行きます。リハビリテーションでは、麻痺の状況を確認し、歩く練習をすることもあります。 	
食事	<ul style="list-style-type: none"> 飲み込みの状況を確認した後に、病院食が開始となります。病院食以外は禁止になります。詳細は医師や看護師にお尋ねください。 	
清潔	<ul style="list-style-type: none"> 体を拭くお手伝いをします。 	
説明指導	<ul style="list-style-type: none"> 行動範囲が広がっている最中は転倒の可能性が高いため、転倒予防についての説明をします。 医師の指示により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリを開始します。リハビリが開始の際には、リーフレットを使用して説明をします。 マスクの着用、病室出入りの際には手指消毒の実施をお願いします。 	

このパスシートは、診療計画の概要等をお知らせするものであり、治療・検査等を決定するものではありません。なお、病状に応じて変更する事がありますが、その時お知らせしますのでご了承ください。

軽症 脳梗塞 患者さんパスシート (No.3)

氏名		診療科名	脳卒中集中治療科		
		入院予定期間	年	月	日
			年	月	日

月日	/ ~ /			
経過	入院 4 日目		入院 5~9 日目	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 手足が動かしづらい、頭痛や嘔気、めまいなどの症状が出た時はすぐに看護師に伝えましょう。 体が熱い、だるい、息苦しさ、痰が増えるなどの症状が出たらすぐに看護師に伝えましょう。 リハビリを継続して行いましょう。 転倒・転落の危険性、予防方法について理解しましょう。 			
薬	<ul style="list-style-type: none"> 再発予防のため、抗血栓のお薬を内服します。 			
検査	<ul style="list-style-type: none"> (/) に 24 時間ホルター心電図の検査があります。 		<ul style="list-style-type: none"> 特にありません。 	
処置	<ul style="list-style-type: none"> 特にありません。 			
観察	<ul style="list-style-type: none"> 体温、血圧、脈拍、酸素飽和度、頭痛、嘔気、麻痺の増悪、瞳孔の大きさと反応、飲み込みづらさの有無、胸の音、痰の量や性状、歩きの状態を観察します。 			
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 集中治療室にいる場合は、車いすで移動します。麻痺や状況を確認し、付き添い歩行でトイレへ移動します。 			
活動	<ul style="list-style-type: none"> 集中治療室にいる場合は、検査時なども車いすで移動します。麻痺や状況を確認し、付き添い歩行を行っていきます。 			
食事	<ul style="list-style-type: none"> 病院の食事以外は禁止になります。詳細は医師や看護師にお尋ねください。 			
清潔	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟に移動後より、シャワーを浴びることができます。 			
説明指導	<ul style="list-style-type: none"> 症状(手足が動かしづらい、頭痛や嘔気、めまいなど)の悪化がないことを確認後に、脳卒中集中治療室から一般病棟にお部屋が移動となります。 行動範囲が広がっている最中は転倒の可能性が高いため、転倒予防についての説明をします。 医師の指示により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリを継続して実施します。 マスクの着用、病室出入りの際には手指消毒の実施をお願いします。 			

このパスシートは、診療計画の概要等をお知らせするものであり、治療・検査等を決定するものではありません。なお、病状に応じて変更する事がありますが、その時お知らせしますのでご了承ください。

軽症 脳梗塞 患者さんパスシート (No.4)

氏名	
----	--

診療科名	脳卒中集中治療科		
入院予定期間	年	月	日
	年	月	日


月日	/ ~ /		
経過	入院 10 日目	入院 11~13 日目	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> • 体が熱い、だるい、息苦しさ、痰が増えるなどの症状が出たらすぐに看護師に伝えましょう。 • 手足が動かしづらい、頭痛や嘔気、めまいなどの症状が出た時はすぐに看護師に伝えましょう。 • 再発予防のために、日常生活での注意点について理解しましょう。 • リハビリを継続して行いましょう。 • 転倒・転落の危険性、予防方法について理解しましょう。 		
薬	• 再発予防のため、抗血栓のお薬を内服します。		
検査	• (/) 手足に血圧計を巻き、動脈硬化を調べる検査(ABI)があります。	• 特にありません。	
処置	• 特にありません。		
観察	• 体温、血圧、脈拍、酸素飽和度、頭痛、嘔気、麻痺の増悪、瞳孔の大きさと反応、飲み込みづらさの有無、胸の音、痰の量や性状、歩きの状態を観察します。		
排泄	• 制限はありません。		
活動	• 制限はありませんが、歩きの状況や麻痺の状況によっては車椅子や歩行器の使用や、看護師が付き添わせていただきます。		
食事	• 病院食以外は禁止になります。詳細は医師または看護師にお尋ねください。		
清潔	• シャワーを浴びることができます。		
説明指導	<ul style="list-style-type: none"> • 行動範囲が広がっている最中は転倒の可能性が高いため、転倒予防についての説明をします。 • 医師の指示により、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリを継続して実施します。 • 「脳梗塞の方へ」のパンフレットを用いて、脳梗塞の原因、予防と日常生活について(食事・水分・内服・入浴・運動・外出や旅行・嗜好品・排泄)、再梗塞の症状について看護師が説明します。 • 日常生活に関する注意点、心配や不安なことがある場合は遠慮なくお尋ねください。 • マスクの着用、病室出入りの際には手指消毒の実施をお願いします。 		



このパスシートは、診療計画の概要等をお知らせするものであり、治療・検査等を決定するものではありません。なお、病状に応じて変更する事がありますが、その時お知らせしますのでご了承ください。

軽症 脳梗塞 患者さんパスシート (No.5)

氏名		診療科名	脳卒中集中治療科		
		入院予定期間	年	月	日
			年	月	日

月日	/
経過	入院 14 日目（退院日）
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> • 体が熱い、だるい、息苦しさ、痰が増えるなどの症状がある時はすぐに看護師に伝えましょう。 • 手足の動かしづらさが強くなった時はすぐに看護師に伝えましょう。 • 再発予防のために、日常生活での注意点について理解しましょう。 • 日常生活の動作をできるだけ自分でできるようにリハビリを継続しましょう。
薬	<ul style="list-style-type: none"> • 再発予防のため、抗血栓のお薬を内服します。
検査	<ul style="list-style-type: none"> • 特にありません。
処置	<ul style="list-style-type: none"> • 特にありません。
観察	<ul style="list-style-type: none"> • 体温、血圧、脈拍、酸素飽和度、頭痛、嘔気、麻痺の増悪、瞳孔の大きさと反応、飲み込みづらさの有無、胸の音、痰の量や性状、歩きの状態を観察します。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> • 制限はありません。
活動	<ul style="list-style-type: none"> • 制限はありません。
食事	<ul style="list-style-type: none"> • 病院食以外は禁止となります。詳細は医師または看護師にお尋ねください。
清潔	<ul style="list-style-type: none"> • シャワーを浴びることができます。
説明指導	<ul style="list-style-type: none"> • 「脳梗塞の方へ」のパンフレットを用いて、脳梗塞の原因、予防と日常生活について（食事・水分・内服・入浴・運動・外出や旅行・嗜好品・排泄）、再梗塞の症状について看護師が説明します。 • 日常生活に関する注意点、心配や不安なことがある場合は遠慮なくお尋ねください。 • 保険などの書類は、退院日に本館1階Aブロックの受付窓口に提出してください(受付窓口は平日、土曜のみ利用可能です)。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

このパスシートは、診療計画の概要等をお知らせするものであり、治療・検査等を決定するものではありません。
 なお、病状に応じて変更する事がありますが、その時お知らせしますのでご了承ください。

脳梗塞後のリハビリテーションについて

患者さんの症状に合わせ、医師の指示のもと、理学療法士・作業療法士・言語療法士が下記の内容でリハビリを実施します。

脳卒中集中治療室

- 動作(起き上がりや立ち上がりなど)の練習を行います。
- 身の回り動作の練習を行います。
- 歩く練習や体幹のバランス練習を行います。

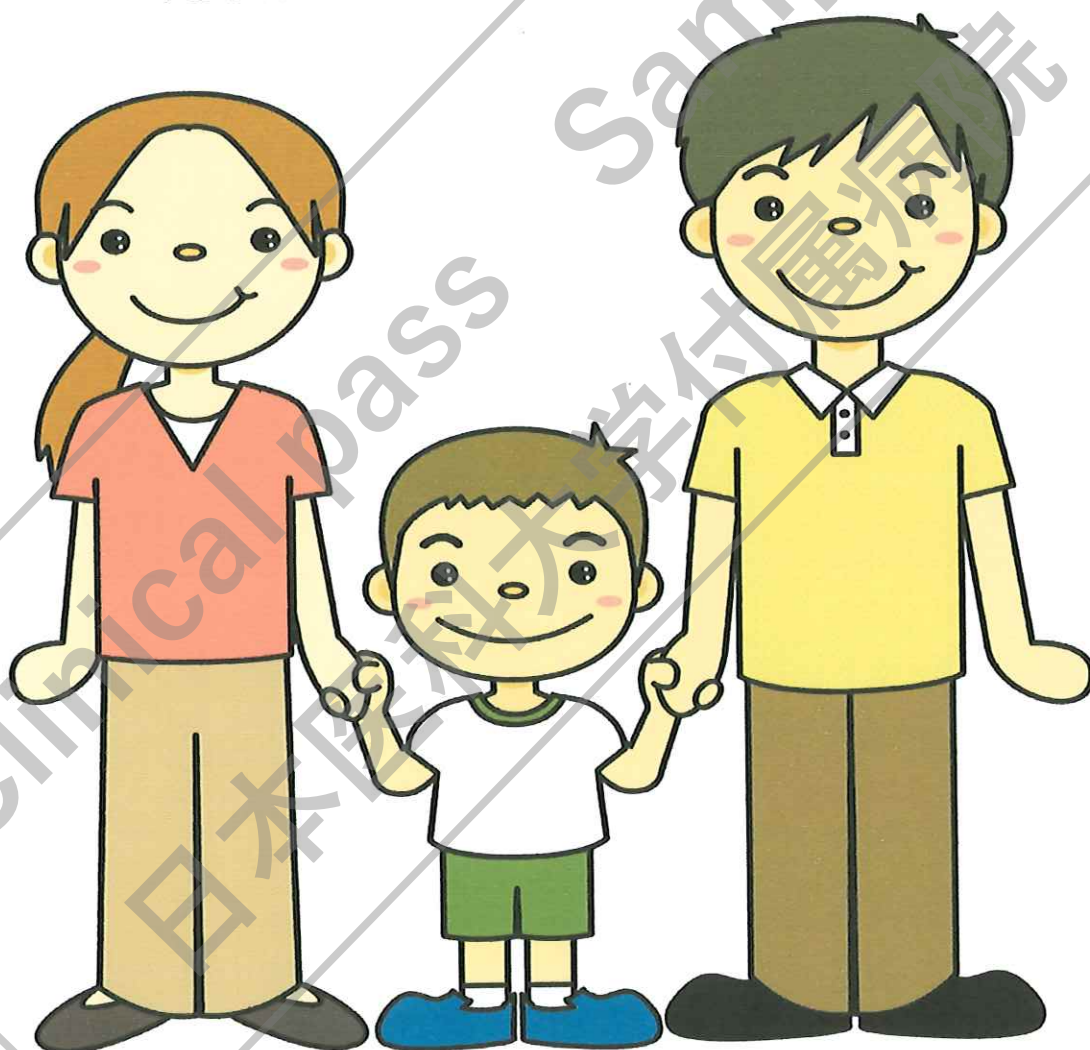


一般病棟

- 脳卒中集中治療室で実施しているリハビリを継続します。
- 退院に向けて日常生活の指導や応用動作の練習を行います。
- (必要に応じて)職業復帰に向けた練習を行います。



脳梗塞の方へ
—再梗塞を起こさないために—


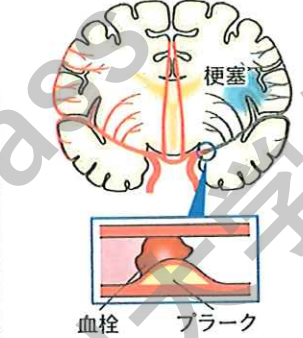
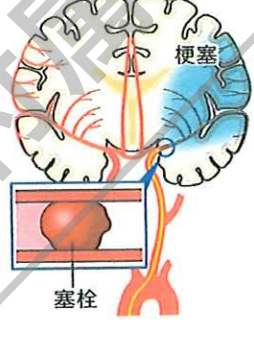


日本医科大学付属病院

☆はじめに☆

脳梗塞とは、脳の動脈がなんらかの原因で、狭窄したり、詰まったりすることで血流が悪くなり、脳細胞が障害される病気です。

<脳梗塞の病型と特徴>

	ラクナ梗塞	アテローム血栓性脳梗塞	心原性脳塞栓症
危険因子	高血圧	高血圧、糖尿病、脂質異常症	心疾患（非弁膜症性心房細動）
病態	細い穿通枝が閉塞する	アテローム硬化により狭くなった主幹動脈に血栓がつくれ、閉塞する	心臓内血栓の一部が剥がれ、塞栓子となり動脈を閉塞する
			

ブレインナーシング 2018. 春季増刊号脳神経疾患病棟新人ナースがかならずぶつかるギモンQ&Aより

() 様の脳梗塞は、() です。

<脳梗塞の原因>

不適切な食生活・運動不足・睡眠不足・ストレス過剰・多量飲酒・喫煙などと言われています。

また、脳梗塞の再発率は高く、発症して10年以内に約半数の方が再発すると言われています。再発すると症状が重篤化すると言われているため、日常生活から予防が必要となります。

☆予防・日常生活について☆

食事

高血圧やコレステロールが高い状態を放置すると動脈硬化を招き、脳卒中や心臓病、腎疾患など多くの疾病を引き起こしやすくなります。そのため、適正体重を維持し、生活習慣に注意していきましょう。バランスのよい食事は再梗塞予防には大切です。

入院中の塩分は、() g でした。

標準体重(Kg) = 身長(m) × 身長(m) × 22 で標準体重がだせ
ます。標準体重を計算してみましょう。

あなたの標準体重は? _____

- ・食事は一日3回、規則正しく、主菜・副菜のバランスよく、できれば同じ時間にとりましょう。
- ・暴飲暴食を避けましょう。

- ・薄味に慣れるために、減塩しょうゆや柑橘類香辛料やハーブなどを使用し、塩分を抑えましょう。
- ・しょうゆ・味噌・塩は塩分を控えているものを使用すると効果的です。
- ・脂質の取り過ぎないようにしましょう。例えば、肉の脂身を少ない部位を選択したり、バター、ラードなどの使い過ぎには注意しましょう。
- ・魚類や大豆製品の摂取回数を増やしましょう。
- ・食物繊維を取りましょう。



水分

水分が不足する血液中の水分が減るため血液がドロドロになり血の塊ができやすくなったりします。喉が渴いていなくても水分をこまめにとるように心掛け、脳梗塞の再発を予防しましょう。



内服

- ・処方された薬は医師の指示通りに内服しましょう。
- ・万が一内服するのを忘れたとしても、2回分を一回に飲むのは止めましょう。
- ・血液をサラサラにする薬を飲んでいるため、怪我をしないように注意しましょう。便に血がまじる、歯茎から血が止まらない、皮膚に青なじみ、青タンがあるなどの症状がある場合は、主治医へ相談してください。



入浴

- ・湯の温度は38～40℃のややぬるめにしましょう。
- ・熱いお湯に入ると急激に血管を拡張させ血圧の変動をきたすので、できれば避けましょう。
- ・お風呂に入る際は、浴室と脱衣所を温め温度変化がないように心がけましょう。血圧の変動が起きてしまいます。寒暖差は避けましょう。



- ・食後・運動直後は避け、少なくとも 30 分は間を開けましょう。

運動



運動が不足すると、食事を取ったエネルギーを消費しきれず、肥満につながります。適度な運動を心がけましょう。

外出・旅行

- ・スケジュールは無理のないものにしましょう。
- ・内服薬は忘れずもっていきましょう。
- ・退院後すぐや長期の旅行の際は、医師と相談しましょう。

嗜好品

タバコ・・・タバコは血管を収縮させ、血圧を上昇させます。また、血液中の善玉コレステロールを破壊します。その結果、血管が細くなり動脈硬化が進行します。

タバコは、百害あって一利なしと言われるように、**禁煙**に努めましょう。



お酒・・・アルコールは、飲み過ぎは禁物で、適度にアルコールを摂取する人は、全く飲まない人よりも脳卒中になる危険がやや少ないと言われています。

(アルコール種類別 1 日の適量の目安)

ビール・・・中瓶 1 本 (約 500ml)

日本酒・・・1 合 (約 180ml)

焼酎・・・約 90ml

ウイスキー・・・ダブル 1 杯 (約 60ml)

ワイン・・・グラス 2 杯 (約 240ml)



・アルコールは医師と飲む量を相談し、飲みすぎに注意しましょう。

・コーヒーの中のカフェインは血管を収縮させるため大量に飲むことはやめましょう。

排泄

- ・ 便座はカバーなどをして暖かくしましょう。
- ・ 力むことは血管を収縮させることになるため、お通じのコントロールをしましょう。



再梗塞の症状

これらの症状が出現したら、速やかな受診をおすすめします。

ろれつが回らない、言葉がでない、片側の手足・顔の麻痺
痺れ、激しい頭痛、片方の目が見えない、物が2重に見える、ふらふらして歩けない。

心配なことや分からないことがありましたら、いつでも
医師・看護師にご相談ください。

日本医科大学付属病院(代表) 03-3822-2131

外来 内線 ()

<メモ>



Clinical pass Sample
日本医科大学付属病院